

イリノイ大学モーテンソンセンター Fall 2006 Associates Program 参加報告

庄 ゆかり

抄録：国立大学図書館協会海外派遣事業による第一回海外派遣者として、イリノイ大学モーテンソンセンター主催のFall 2006 Associates Programに参加した。このプログラムは、国際的な図書館員の継続研修を目的とし、主として1) 講義、2) 図書館・関係団体訪問、3) イリノイ大学図書館員による各図書館業務についてのプレゼンテーション、4) 他図書館での短期宿泊研修で構成される。プログラムの概要を報告し、評価を試みる。

キーワード：国立大学図書館協会、海外派遣事業、イリノイ大学、モーテンソンセンター、国際図書館プログラム、Fall Associates Program

1. はじめに

このたび、国立大学図書館協会¹⁾の海外派遣事業により、The Mortenson Center of International Library Program²⁾、University of Illinois³⁾（以下、モーテンソンセンター）のFall Associates Programに参加した。

モーテンソンセンターは、図書館員の継続教育を目的に設立された世界的にも珍しい機関である。

このレポートでは、モーテンソンセンターの紹介、Fall Associates Program実施方法、参加者と現地での状況、研修内容について報告し、プログラムの評価を試みる。

2. 国立大学図書館協会海外派遣事業

国立大学図書館協会研修委員会では、国際的な視点に立ったマネジメント能力を備えた人材の養成を目的に、平成18年度から3年間にわたり、会員館に所属する職員を海外へ派遣し、調査研究、成果の普及、職員の資質向上、育成を図ることを決定した。

海外派遣の内容は

(1) イリノイ大学モーテンソンセンター Fall Associates Program (8週間) への参加

(2) 諸外国の先進的な図書館活動、施設等に関する調査・研究

派遣人数は、会計年度ごとに各1名である。(平成18年度については、(2)による派遣は行われなかった。)

今回、モーテンソンセンターの研修プログラムへ国立大学図書館協会から初の参加者として派遣されたことは、私にとって大変に光栄なことであった。

3. モーテンソンセンター

モーテンソンセンターは、米国図書館界の幅広い

国際的活動を象徴するような独特の存在である。以下、センターの設立背景とその活動、および今回参加したFall Associates Programについて解説する。

3.1. モーテンソンセンターの設立と歴史

1986年、Gerda B.およびC. Walter Mortenson夫妻からの寄付金200万ドルにより、Distinguished Mortenson Professorship for International Library Programsが設置された。その目的は、国際的な教育・相互理解・平和を目指すための国際的図書館員研修プログラムの実現である。

初代Mortenson Distinguished ProfessorであるMarianna Tax Choldin氏はロシア(旧ソビエト連邦)研究の専門家だったので、ロシアに対し初期の活動を行った。またモーテンソン特別講義シリーズを開始し、活動への賛同者・協力者を広く世界へ求めた。図書館員のために国際的な研修を行うことを目的とする機関というのは世界初であったため、活動方針を決定し、実行に移すまでにはしばらく時間を要した。活動方針が確立し研修プログラムが発展するに伴い、より広範囲に活動を展開するため、1991年Mortenson夫妻よりさらに200万ドルの寄付を受け、モーテンソンセンターが設立された。

1997-1998年のAmerican Library Association PresidentであるBarbara Ford氏が、2002年に2代目Mortenson Distinguished Professorに就任、現センター長をつとめる。

モーテンソンセンターは、イリノイ大学図書館分館のひとつである学部生用図書館の中におかれている。イリノイ大学図書館は、公立大学としては米国最大、全米では3番目に大きな大学図書館である。

3.2. モーテンソンセンターの活動

モーテンソンセンターの活動の主体は、教育レベルの向上・相互理解・平和の実現を目指すため図書館員に研修プログラムを提供し、図書館・図書館員の間に、地理的な距離やテクノロジーの発展程度にかかわらず連携関係を作りだし、それを強めることである。

モーテンソンセンターでは、Fall Associates Program 以外にも各地から調査・研修グループを受け入れ、研修プログラムを実施している。これまでに、89カ国から700人以上の図書館員が、モーテンソンセンターの研修プログラムに参加した。

現在、モーテンソンセンターが力を入れているのは、アフリカにおける大学図書館事情の調査と改善である。毎年のように助成金を獲得し、スタッフが現地へ赴いて調査・指導にあたっている。

3.3. Fall Associates Program

今回私が参加したFall Associates Programは、国境・館種を越えて図書館員へ継続教育を提供するというモーテンソンセンターの思想を体現する研修プログラムである。

3.3.1. 背景

モーテンソンセンターでは設立当初より海外からの研修生を受け入れていたが、様々な国からの研修生を集めて一つのグループをつくり、そのグループに対しより組織化された研修プログラムを提供する目的で、1995年にFall Associate Programを開始した。

毎年5月1日をメ切に募集が行われ、9月初めから11月第1週までの8週間、グループ研修が行われる。

グループ研修終了後、さらに個人単位で研修期間を延長することも可能である。

3.3.2. 参加者

Fall Associate Programの対象者は、中堅図書館員である。毎年10数名の図書館員が、パートナー機関からの推薦、または一般応募で選抜され、世界各国から集まる。

研修期間中、参加者はモーテンソンアソシエイツと呼ばれる。大半は、キャンパス内一ブロックにある2人部屋のアパートに居住する。研修中、または研修時間外にも、イベントやパーティーへの参加等、グループ内のみならず現地関係者との交流の機会が豊富に提供される。

3.3.3. 参加目的

図書館・情報学関連の各分野を網羅する研修プログラムとなっていることから、参加者側の期待も様々である。研修プログラム自体への期待もさることながら、日常的に行われる参加者同士の知識や意見の交換、そして国際的なネットワーク作りも、このプログラムへの参加目的のひとつとなっている。

3.3.4. プログラムの構成

プログラムは、大きく分けて、4種類の要素で構成される。

(1) イリノイ大学図書館情報学大学院教官をはじめ、スペシャリストによる講義

図書館学に関連した情報学の最新動向について、ウェブデザインから資料のデジタル化まで広範囲にわたる講義・実習、また、図書館組織・経営学、コミュニケーション関連の講義がある。いずれも一度限りの講義ではなく、シリーズで行われる。

(2) 図書館および関係団体訪問

イリノイ大学の各図書館をはじめ、大学・高校・公共図書館や博物館、図書館ネットワーク団体、アメリカ図書館協会本部など、各種の関係機関を訪問する。

(3) 現地図書館員による実情説明、意見交換および交流

イリノイ大学図書館員他、図書館関係団体等職員による業務説明が行われる。学内で行われる会議、イリノイ州図書館協会年次大会等へも参加する。

また、イリノイ大学図書館員と私的に交流できるよう、各人に担当の“フレンド”が紹介される。

(4) 他図書館での研修 (Host Visit)

グループから離れ、単独あるいは2人ペアで、イリノイ大学以外の図書館へ派遣され、3日間の宿泊研修を行う。

4. Fall 2006 Associates Program

2006年のFall Associates Programは、9月6日から11月3日までの約8週間で開催された。

4.1. 参加者

7カ国から17人が参加した。コロンビアからは最多の5人、対して韓国とベトナムからは1人ずつの参加であった。

その内訳は、大学図書館員5名、公共図書館員10名、教育職2名である。

公共図書館員の中には、子供図書館の館長、文化広報担当者なども含まれ、バラエティーに富んだ顔ぶれであった。

表1 国別参加人数および所属機関

国	所属機関			国別 人数
	大学図書館	公共図書館	研究職等	
コロンビア		5		5
チリ		3		3
日本	2		1	3
ロシア		2		2
ナイジェリア	1		1	2
ベトナム	1			1
韓国	1			1
機関種別人数	5	10	2	17

4.2. プログラムの内容

プログラムは、比較的余裕をもって始められ、徐々に密度が高くなるよう構成されている。(資料

1 プログラムスケジュール参照)

4.2.1. 講義

イリノイ大学図書館情報大学院教官およびモートンソンセンター講師による講義が、プログラム期間を通して行われた。

4.2.1.1. ニューテクノロジー (Eric Sizemore氏, Mortenson Center Instructor) 6回

図書館員にとって必須と考えられるインターネットについての最新情報に関する講義と実習。ホームページデザイン基礎、Web上での情報検索技術、インターネット上の最新情報資源について。講義で扱われた項目を下記に例示する。

RSS, YouTube, Furl, Newsgator, Yahoo! Alerts, TinyURL, WatchThatPage, Nvu, Google Reader, Bloglines, Slide.com, Bloggerなど。

4.2.1.2. 図書館マネジメント論 (情報資源・人的資源の活用) (Terry Weech氏, Professor, Graduate School of Library and Information Science) 3回

パワーポイント、ビデオ等を利用し、わかりやすく工夫された講義であった。

各講義のトピックは以下のとおり。

Library Cooperation and Networks

Human Resource Management

(職場での人間関係について、タイプ別対処法)

Financial Management

4.2.1.3. 組織論 (Dale Silver氏, Assistant Dean for Academic Affairs, Graduate School of Library and

Information Science) 3回

組織の形態とその特徴について。図書館員向けにアレンジされていない純粋な講義であり、また参加者は積極的な発言と講義進行に対する関与を求められた。アメリカにおける大学院の授業を実体験する貴重な機会であった。

4.2.1.4. プロジェクトマネジメント (Barbara Ford氏, Director, Mortenson Center) 4回

プロジェクトの立案、調査、企画、プレゼンテーションの方法を学び、課題として、小グループもしくは単独でプロジェクトを発案し、プレゼンテーションを行った。

短期間で立案から発表まで行うので、経験の差が如実に現れる困難な課題であったが、参加者同士がお互いに助け合うことで、企画・立案のテクニックだけでなく、情報交換の大切さを学ぶ課題でもあった。

また、国別に自国の図書館事情について、プレゼンテーションを行った。

日本からは、バックグラウンドの異なる3名が参加したので、それぞれの視点から考える課題や関心事について意見交換をし、非常に有益だった。

国別プレゼンテーションは、イリノイ州立図書館でも発表した。

4.2.1.5. 講義の成果

サービスを提供する機関としての図書館をいかに経営するかについて、さまざまな側面から学ぶことにより、自分が所属する広島大学図書館、また日本の国立大学図書館の現状について考えさせられた。

今後の大学図書館の方向性、また課題とその解決策を考えるためには、客観的な視点からの評価と、情報技術に関する知識、また企画やその成果をアピールする能力が必要だということを知った。

4.2.2. 図書館・関係団体見学

研修期間を通して、24図書館・図書室と3関係団体を見学した。(表2)

4.2.2.1. 図書館

さまざまな種類・規模の図書館を見学し、図書館員と意見交換をする中で、米国において、それぞれの図書館に期待される役割が明らかにされていた。

学校図書館では、生徒に対し、読書指導と著作権教育を行う。また今日ではインターネット利用に関する責任とマナーなどの教育も、図書館の責務とな

表2 訪問先とその種別

月	日	訪問先	大学図書館	学校図書館	公共図書館	関係団体
9	12	Main Library, UI	○			
		Undergraduate Library, UI	○			
9	12	Area Studies Libraries, UI Africana, Asian, Latin American and Caribbean, Slavic and East European	○			
		Library and Information Science Library, UI	○			
9	19	Urbana Free Library			○	
9	22	Lincoln Trail Libraries System (LTLS)				○
		Illinois Wesleyan University Library	○			
10	2	American Library Association				○
		Chicago Public Library			○	
10	6	Library of the Health Sciences, UI Chicago Campus*	○			
10	9	Champaign Centennial High School Library		○		
		Conservation Laboratory, UI	○			
		Oak Street Library Facility, UI	○			
10	13	Parkland College Library	○			
10	16	Champaign Public Library			○	
10	17	Illinois State Library			○	
		Shawnee Talking Book Library			○	
		Abraham Lincoln Presidential Library & Museum			○	
10	18-20	Loyola University Library (Host visit)				
		Cudahy Library	○			
		Information Commons (under construction)	○			
		Library Storage Facility	○			
		Women and Leadership Archives	○			
		Lewis Library	○			
10	23	Arthur Public Library			○	
10	26	OCLC				○
10	27	Westerville Pubic Library			○	
10	31	University High School Library		○		

注) 表中, UIは University of Illinoisの略。*は個人での訪問 (研修プログラム外)

っている。

公共図書館では、各種出版物（視聴覚資料等を含む）を提供し、その利用をアシストすることで、市民の生活が豊かになるよう努めている。

大学図書館をはじめとする学術図書館では、知識追求型研究活動を積極的にサポートする。

さらに、博物館付属図書館、視覚障害者のための図書館など各種図書館が一体となり、地域・個人的環境にかかわらず、図書館を利用し学習・研究が続けられるような社会環境を作り出す努力がされてい

る。

その一例が、イリノイ州内の図書館を結ぶ資料配送システム「In-State Delivery System」である。州内すべての図書館へ、毎日配送トラックがやってきて、図書館別に資料を配送する。どの図書館からでも、数日で州内各地にある資料が入手できる。

また、視覚障害者のための図書館では、資料の郵送による提供が行われており、資料閲覧のための装置も貸し出される。館数・資料数が少ないことによる不便を解消するための工夫である。

日本における大学図書館の一般公開は、近年めざましく進んでいる。また、館種を越えたネットワークを構築するための努力も行われている。館種の違う図書館同士がどのように協力し社会へ貢献するか、そのモデルケースとして米国の各種図書館をまとめて見学できたことは、非常に有益であった。

4.2.2. 関係団体

LTLS (Lincoln Trail Libraries System)⁴⁾ (イリノイ州シャンペーン), ALA (American Library Association) 本部⁵⁾ (イリノイ州シカゴ), OCLC (Online Computer Library Center) 本部⁶⁾ (オハイオ州ダブリン) を見学した。

OCLCでは、各地域ごとに分かれ、少人数でリラックスした雰囲気の中、地域担当者から現状説明と今後の展開に対する説明を受けた。OCLCが展開する各種事業について、業務現場の視察とともに各担当者による説明が行われた。規模の大きさとサービスの多様性、またスタッフ層の厚さ、世界的な業務展開に感銘を受けた。

4.2.3. 図書館員との情報交換

現地図書館員との直接的な情報交換は、研修プログラムの中でも重要視されており、公式・非公式に多くの機会が提供された。

また個人的なインタビューや図書館訪問なども、相談・リクエストすれば、モーテンソンセンター側で適切な相手との面会予約など、便宜をはかってくれた。

ただし、研修プログラムおよびセンター側で企画したイベント等には、基本的に全参加が求められる。また、相手となる図書館員も多忙なスケジュールの中での面会となるので、なかなか思い通りにならず、厳しい時間管理が必要であった。

4.2.3.1. イリノイ大学等図書館員による業務説明

図書館全体としてよりよいサービスを提供するためには、各業務についての知識と全体としての将来像を把握することが重要である。

イリノイ大学図書館の業務を細分化し、それぞれ担当の図書館員による概論および業務説明を受けた。参加者にとっては、自館の業務と比較し、また実例をあげて議論する機会であった。また、イリノイ大学以外の関係者によるプレゼンテーション・講義が行われた。

内容を8分類し、紹介する。

(1) 利用者サービス

イリノイ大学図書館で実際に行われている利用者

サービスの概要。研修期間中は、参加者も制限なく学生同様に図書館サービスが利用できることで、利用指導もかねて詳しく説明があった。

レファレンスサービスについては、Electronic Referenceと題し、まず電子化されたレファレンスツールを種類別にあげ、それぞれの長短が論じられた。長所としては、資料へのアクセスが容易になること、多くの資料を一度に比較検討することができることなどがあるが、反面利用者にとっては、それぞれの資料の特徴や限界を理解することが困難であり、図書館にとっては、高額な購入経費の確保や、パッケージ等で購入する場合は内容のコントロールが難しいことなどが短所としてあげられた。また、メールレファレンス(約200件/月)や、2001年から始めたチャットレファレンス(約300件/月)について、利用者の利便性が高まり比較的安価に行えるサービスではあるが、反面利用者対応が多角化することにより、サービスの遅延を招いたり、優先度の判断を困難にする場合もあるとの説明がされた。

イリノイ大学図書館におけるレファレンスサービスについては、峯氏の論文⁷⁾に詳しく報告されているので参照されたい。

(2) リテラシー教育

イリノイ大学図書館では、ACRL (Association of College and Research Libraries)⁸⁾の定める標準リテラシー教育を基準に、プログラムを整備している。米国では初等教育の段階から図書館の責務として資料の利用法や著作権についての教育が行われるが、今回の研修中には、高校生に対し行われるネチケット教育について学校図書室の図書館員から説明を受けた。現実にある問題から自由に議論を展開し、自分達で結論を導くという学習過程が紹介された。

(3) コミュニケーション技術と特定利用者に対するサービス

生き生きと働くため、また職員同士あるいは利用者とのコミュニケーションを円滑にするための技術が紹介され、実習を行った。

また、様々な文化的・社会的背景をもつ学生に対するサービス、障害者に対するサービスについて、それぞれ専門の図書館員から現状・課題・展望について具体的事例を交えた説明を受けた。

講義でも、組織・人・コミュニケーションについて何度も触れられ、重要視されていたのは印象的であった。

(4) 収書と目録

イリノイ大学は、全米3位の蔵書数を誇る巨大大学図書館である。資料の保存と目録情報整備にも力を尽くしている。

収書と目録について、まず選書・購入・目録・整備の各部門を回るツアーが行われ、部門ごとに説明を受けた。また、最近の目録事情、図書館システム Voyager について、そしてベンダーとの関係について、各専門図書館員から具体的な説明があった。

(5) 資料の保存とデジタル化

イリノイ大学には、資料保存専門の図書館員と独立部署があり、最新設備を備えている。Preservation と Conservation の違いと技術について、作業現場を見学し、講義を受けた。

資料のデジタル化についてはかなりの講義時間が割り当てられ、電子化の技術的側面について、避けて通れない著作権処理について、電子化資料のコレクション構築について、イリノイ大学では始まったばかりのリポジトリ IDEALS⁹⁾ について、そして電子化資料の運用について議論された。

(6) 大学図書館マネジメント

実際に行われた利用者満足度調査の分析と評価について、University Librarian の役割、資金調達と広報活動について、それぞれ担当者から説明があった。

(7) 各種図書館との連携

図書館同士が連携することの重要性について講義があり、また直接各団体・コンソーシアムの話聞いた。研修プログラムに参加した団体は、下記のとおり。

- ・ OCLC (Online Computer Library Center)
- ・ IFLA (International Federation of Library Associations and Institutions)¹⁰⁾
- ・ CIC (Committee on Institutional Cooperation)¹¹⁾
- ・ CARLI (Consortium of Academic and Research Libraries in Illinois)¹²⁾
- ・ OhioLink (The Ohio Library and Information Network)¹³⁾
- ・ LTLS (Lincoln Trail Libraries System)

(8) 図書館界最新の話

Learning Commons：イリノイ大学図書館では現在 Learning Commons の整備を進めている。担当職員が事前に各地で調査した内容について、報告された。

Googlization of everything：Google が図書館に与える影響についての議論。特に Google Book Search について、検索範囲の拡大やアクセスの向上など長所はあるが、適切な検索結果が得られにくく、また Google に権力が集中してしまうことから起きる弊害もある、と論じられた。

eGranary Presentation：インフラ整備途上の各国に、できるだけタイムリーに Internet 上の情報を

提供するために開発されたスタンドアロン型データベース eGranary¹⁴⁾ について、その内容と運営について紹介された。

4.2.3.2 モーテンソンフレンドとの交流

各参加者には、担当のイリノイ大学図書館員が割り当てられ、より親しく交流できるように配慮された。

担当図書館員はモーテンソンフレンドと呼ばれ、前もってボランティアとして募集される。研修期間中多くの図書館員に会う機会があるが、プログラム以外でのコミュニケーションがとれる関係を作るのはなかなか難しい。しかし、モーテンソンフレンドとは一対一の関係なので、時に一緒に食事をしたり研修の様子を話したりして、親睦を深めることができる。

モーテンソンセンターでは、各参加者の関心事や担当業務などを配慮しつつ担当者を決めるようだが、ボランティアであることと、研修補助ではなく滞在中の「お友達」としての役割を果たすためのフレンドなので、あまり共通点のないフレンドが割り振られることもある。また、募集からプログラムまで時間があるので、フレンドが出張から帰ってこなくてなかなか会えない、という参加者もいた。

幸い私のフレンドは自身の研究テーマに関連深い Development 担当だったので、実際に仕事をする手順や内輪の話なども聞くことができた。

また、同室の高井さん（立命館大学図書館）がフレンドを招いての夕食会をされた際に同席させてもらったり、ご自宅に一緒に招待していただいたりし、彼女の担当であるイリノイ大学リポジトリの話聞くことができた。

さらに、アジア系資料図書館の野口さんは、毎年フレンドとして、日本からの参加者に気配りをされている。私のフレンドではなかったが、何度か個人的にお会いして分野別図書館員としての話をうかがったり、さらにそのお知り合いにご紹介いただいて、イリノイ大学での学習・研究生活の話などを聞く機会を作ってくださいました。

いずれも、研修の枠を越えリラックスした状態で交流するという得がたい経験であり、得るものが多かった。

4.2.3.3 イリノイ州図書館協会年次大会

ILA (Illinois Library Association)¹⁵⁾ の年次大会へ参加した。前日に行われた pre-conference から、全日程へ参加し、各人の興味に応じたプログラムへ出席した。

大会は、図書館関連商品等の展示会、最新データベース等の紹介、ポスター発表、事例報告及び討論会が主となる内容であった。

規模の大きさとプログラムの多様さに圧倒される思いであったが、事例報告については、国が違っても図書館員の抱える課題は同じとの感を強くした。

またポスター発表では、特に公共図書館等での読書クラブ開催や特殊資料の収集など、独自の活動を展開している例が多く発表され、興味深かった。

4.2.3.4. 会議への参加

イリノイ大学 Library Faculty Meeting へ出席した。

規則の改定等に関する議論のほか、イリノイ大学で始まったばかりの機関リポジトリ IDEALS について、担当者から説明プレゼンテーションが行われた。

また、Mass Digitization Working Group による Open Content Alliance¹⁶⁾での活動報告と、イリノイ大学所蔵資料のうちイリノイ州に関連する著作権フリーの資料をデジタル化し公開するプロジェクト Illinois Harvest Portal Project¹⁷⁾が紹介された。Illinois Harvest は、写真・図書・マイクロフィルムなど多様な資料のコレクションとなっている。

日本では機関リポジトリにコレクションを集中する場合もあるが、イリノイ大学には目的の異なるデジタル資料のコレクションが複数存在し、独立して運営されている。アクセスポイントが分散しわかりにくいという難点はあるが、目的によりコレクションを選択できるという利点もある。目的が明確な分、収集効率もよいのではないかと思われた。

4.2.4. 他図書館での研修 (Host Visit)

参加者 1 - 2 名の小グループで、イリノイ大学図書館を離れ、他図書館で 2 泊 3 日の研修を行った。Host Visit では、参加者の往復旅費・交通機関、宿泊先、研修内容は、Host となる各図書館に一任されている。

私は、Loyola University Library¹⁸⁾ (イリノイ州シカゴ) で研修を行った。この大学は、広島大学と規模の似たキリスト教系私立図書館で、世界各地に系列大学が存在する。

Loyola University Library は、今回はじめて Host として Fall Associates Program に参加した。最近、学長を始め職員や経営体制が大きく変わったばかりであった。図書館の隣に、学習・研究用のパソコンや各種機器、個人・グループ学習のための個室や共用スペースなどを備えた大規模な Information Commons を建設中である。技術面でのサポートは情報

系スタッフが中心となって行い、利用や運営面を図書館員が担当する。これまで、大学としての資金調達業務は存在したが、図書館ではこれから考えていくところであり、Information Commons の維持など将来のためには力を入れて行きたいとのことだった。

全館をあげての受け入れ態勢で、全ての部署および分館を見学、各業務担当者との面談が設定され、日本の図書館事情についてのプレゼンテーションを行い、短期間にあらゆることが詰め込まれた非常に有益なものであった。(Loyola University での研修日程については、資料 2 参照)

また、Robert Seal 館長の自宅が宿泊先として提供され、食事はもとより観光までも配慮され、大変濃厚な 3 日間を過ごすことができた。

4.3. プログラムの評価

広範な研修内容を 8 週間で修了できるよう、よく考えられたプログラムであった。イリノイ大学図書館が持つ資源が惜しみなく提供され、図書館員・図書館情報学大学院教官はもとより、Host Visit 受け入れ先の図書館やコンソーシアム等の関係者などの協力があり、モートンソンセンターの認知度の高さ、Associates Program の歴史を感じた。

学ぶことの多い有意義な研修だったが、参加者の立場としてはいくつか要望したい事項があり、一部は研修の最後に Final Report としてモートンソンセンターへ提出、また最終面接の際に口答で伝えた。

今後、この研修への参加者に参考になるかと思われるので、以下へあげる。

(1) 情報の早期公開

プログラムのスケジュール等詳細は、実際に現地研修が始まると同時に参加者へ渡されるが、不確定部分があってもよいので、事前に情報が欲しい。

Host Visit や国別プレゼンテーションなどは、ある程度事前準備ができていの方が、より効果的な研修ができたと思われる。

(2) Host Visit

Host Visit に、あと数日余裕が欲しい。イリノイ大学以外の図書館で事例調査をするためには、往復を含め 3 日間ではあまりに短期間過ぎると感じた。

(3) 講義内容

企画・立案、資金の調達、組織内コミュニケーションについて、さらに深く学ぶ機会が欲しい。

(4) 語学研修

参加者の語学力にばらつきがあり、時に研修の進行が難しい場合があった。プログラムの趣旨を考えると、参加者にハイレベルな語学力を求めるよりは、

期間中にコミュニケーションスキルのひとつとしての語学研修が選択できるとよいのではないかと思う。

センターから大学で行われている一般向け語学研修が紹介されたが、プログラムのスケジュールとは合わないため、希望者も参加できなかったのが残念であった。

(5) スケジュール

研修期間後半、ILA年次大会参加、Host Visit、関係団体訪問などのために小旅行が重なり、キャンパスを離れることが多かった。特に最後の1-2週間は、参加者にとってこれまでの研修成果をまとめる時期であるので、なるべくキャンパス内で過ごせるような予定配分が望まれる。

4.4. その他

現地での生活について、簡単に紹介する。

到着直後の数日は、書類手続きにあてられる。その後、大学のIDカードが発行される。大学IDにより、市内バスは無料、図書館資料やデータベースも学生と同じ条件で利用できる。

情報環境としては、アパートには旧型の電話しかないが、敷地内に居住者専用のコンピュータセンターがあり、学内コンピュータ用のID・PWを交付された後は自由に利用できる。また図書館内にも利用者用のコンピュータが多数用意されている。

現地到着から帰国まで、移動の際はバスやタクシー、またスタッフの自家用車など、必ず交通手段が提供された。

日常生活についても、買い物から医療面まで細部まで行き届いた配慮がされた。車がないと難しい生活環境ではあるが、生活必需品の入手に困らないよう、ショッピングセンターまで同行してバスの乗り継ぎも含め案内され、また国際通話もできるテレホンカードが支給され、緊急連絡先としてスタッフの自宅電話番号も渡された。

参加者同士の交流も盛んに行われた。チリの建国記念日パーティーや、自室で開いた浴衣パーティー、インターナショナルフードパーティーなど、楽しい思い出である。

センターからも、キャンパス内で行われるイベントやコンサート、地域のイベントなどの情報が提示され、積極的に参加して様々な文化への理解を深めるよう奨励された。関係者の自宅で行われるパーティーも多く、研修のみでなく週末や夜間まで、非常に充実した忙しく楽しい8週間であった。

5. 総括

中堅図書館員の継続教育と、国際交流およびネットワーク作りを目的としたプログラムとして、すばらしい研修であったと思う。

研修期間中に成果をあげるのではなく、研修終了後の活動に有意義であるよう考えられた内容であり、参加者それぞれが新たな目的を持って帰国した。

今後、広島大学図書館はもとより、大学図書館全体の将来を考え、その発展に貢献できるような職員になることを目標に、研鑽していきたい。

6. 謝辞

研修期間中、またその前後にわたり、大勢の方からご指導とご協力をいただいた。

特に、プログラム主催者であるモートンソンセンター、イリノイ大学図書館員の方々、Host Visit先として迎え入れてくれたLoyola University Libraryの館長夫妻をはじめとする職員の方々の暖かいご支援に感謝する。

また、このたびの海外派遣事業を行った国立大学図書館協会、そして長期間にわたる研修へ派遣してくれた広島大学図書館に感謝する。

最後に、Fall 2006 Associates Programに参加した仲間達へ、その友情に感謝の意を表する。

注・参考文献

- 1) 国立大学図書館協会 (JANUL) (online), available from <<http://wwwsoc.nii.ac.jp/janul/>>, (accessed 2007-3-28).
- 2) Mortenson Center for International Library Programs, University of Illinois at Urbana-Champaign (online), available from <<http://www.library.uiuc.edu/mortenson/>>, (accessed 2007-3-28).
- 3) University of Illinois at Urbana-Champaign (online), available from <<http://www.uiuc.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 4) Lincoln Trail Libraries System (LTLS) (online), available from <<http://www.ltls.org/>>, (accessed 2007-3-28).
- 5) American Library Association (ALA) (online), available from <<http://www.ala.org/>>, (accessed 2007-3-28).
- 6) Online Computer Library Center (OCLC) (online), available from <<http://www.oclc.org/>>, (accessed 2007-3-28).
- 7) 峯環. アメリカの大学図書館における利用者サービスに学ぶ: イリノイ大学モートンソン・センター国際図書館プログラムに参加して. 大学図書館研究. No. 78, 2006, p.40-52.
- 8) Association of College & Research Libraries

- (ACRL) (online), available from <<http://www.ala.org/ACRL>>, (accessed 2007-3-28).
- 9) The Illinois Digital Environment for Access to Learning and Scholarship (IDEALS) (online), available from <<http://www.ideals.uiuc.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 10) International Federation of Library Associations and Institutions (IFLA) (online), available from <<http://www.ifla.org/>>, (accessed 2007-3-28).
- 11) Committee on Institutional Cooperation (online), available from <<http://www.cic.uiuc.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 12) Consortium of Academic and Research Libraries in Illinois (CARLI) (online), available from <<http://www.carli.illinois.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 13) Ohio Library and Information Network (OhioLink) (online), available from <<http://www.ohiolink.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 14) The eGranary Digital Library (online), available from <<http://www.widernet.org/digitallibrary/>>, (accessed 2007-3-28).
- 15) Illinois Library Association (ILA) 2006 Annual Conference (online), available from <<http://www.ila.org/events/conference2006.htm>>, (accessed 2007-3-28).
- 16) Open Content Alliance (online), available from <<http://www.opencontentalliance.org/>>, (accessed 2007-3-28).
- 17) Illinois Harvest (online), available from <<http://illinoisharvest.grainger.uiuc.edu/>>, (accessed 2007-3-28).
- 18) Loyola University Libraries (online), available from <<http://libraries.luc.edu/>>, (accessed 2007-3-28).

参考文献

- 1) 梅澤貴典. アメリカの大学図書館運営：モーテンソン・センター国際図書館プログラム参加報告. 大学図書館研究. No. 74, 2005, p.40-54.
- 2) 鷹尾道代. アメリカにおける大学図書館員の専門性について：イリノイ大学モーテンソン・センター国際図書館プログラムに参加して. 大学図書館研究. No. 71, 2004, p.17-32.
- 3) Oduwole, A.A.; Sho, Yukari. Breaking Barriers and Connecting Librarians around the World : Report of an International Training Program. Library Hi Tech News. Vol.24, no. 3, 2007, p.26-28

<2007.4.5 受理 しょう ゆかり 広島大学図書館学術情報整備グループ主任 (雑誌コレクション主担当) >

資料 1

月日	図書館員による業務説明	講義	図書館及び関係団体訪問	会議等への参加	その他
9 12	Overview of the Program ; Question & Answer Session. Barbara Ford, Director, Mortenson Center Dawn Cassady, Training and Technical Assistance Coordinator, Mortenson Center		Main Library, UI		
			Undergraduate Libraries, UI Area Studies Libraries, UI Africana, Asian, Latin American and Caribbean, Slavic and East European		
			Library and Information Science Library, UI		
9 13	"How to" in the University of Illinois Library. Dawn Cassady, Training and Technical Assistance Coordinator, Mortenson Center	Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor			
	"Getting to Know You" : Tell Us About Your Library and Your Work. Mortenson Center Associates				
9 14	"Follow the Book" Tour : Technical Services. Lynn Wiley, Head of Acquisitions	Library Management Series : Library Cooperation and Networks. Terry Weech, Professor, Graduate School of LIS			
9 15					John and Carol McClary farm and farmhouse, Historical Society, and art studio
9 18	Evaluating Library Services. Bob Burger, Associate University Librarian for Services	Library Management Series : Human Resource Management. Terry Weech, Professor, Graduate School of LIS			
9 19	Introduction of American Public Libraries. Fred Schlipf, Director, Urbana Free Library	Library Management Series : Organizational Theory. Dale Silver, Assistant Dean for Academic Affairs, Graduate School of LIS	Urbana Free Library		
9 20	Introduction of the Voyager System. Peggy Steele, Coordinator for Integrated Library Systems	Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor		Library Faculty Meeting	
	Library Development and Promotion. Roxanne Frey, Associate Director of Library Development and Public Affairs				
9 21	Associations. Barbara Ford, Mortenson Center Director				
9 22	Library Cooperation & LTLS Orientation. Donna Schaal		Lincoln Trail Libraries Systems (LTLS)		
	FISH! : Excellent Customer Service. Jan Ison, LTLS Director"				
9 25	Introduction to Digitization. Nuala Koetter, Head, Digital Services and Development Unit	Project Management : Introduction. Barbara Ford, Mortenson Center Director			
9 26		Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor			
		Library Management Series : Organizational Design. Dale Silver, Assistant Dean for Academic Affairs, Graduate School of LIS			
9 27	Committee on Institutional Cooperation (CIC). Cindy Clennon, Assistant Director, Center for Library Initiatives (CIC)		Illinois Wesleyan University Library		
9 28	Cataloging Trends and Standards. Atoma Batoma, Cataloging Librarian	Project Management : Small Group Presentations. Barbara Ford, Mortenson Center Director			
9 29	Reference Services. Beth Woodard, Head, Reference Library	Project Management : Small Group Presentations. Barbara Ford, Mortenson Center Director			
10 2			American Library Association Chicago Public Library		
10 3				"Thinking Outside the Borders" ILA Preconference.	
10 4				ILA Conference	
10 5				ILA Conference	

イリノイ大学モートンソンセンター Fall 2006 Associates Program 参加報告

月日	図書館員による業務説明	講義	図書館及び関係団体訪問	会議等への参加	その他
10 9	Multicultural Services in the University of Illinois Library. Emily Love, Outreach Librarian for Multicultural Services		Champaign Centennial High School Library		
10 10	Preservation of Library Collection. Tom Teper, Head of Preservation	Library Management Series : Organizational Theory. Dale Silver, Assistant Dean for Academic Affairs, Graduate School of LIS	Conservation Laboratory, UI		
10 11	Information Literacy. Lisa Janick Hinchliffe, Head, Undergraduate Library and Coordinator for Information Literacy Services and Instruction, Library. Susan Avery, Coordinator of Instructional Services.	Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor	Oak Street Library Facility, UI		
	Learning Commons. Lisa Janick Hinchliffe, Head, Undergraduate Library and Coordinator for Information Literacy Services and Instruction, Library.				
10 12	Windsor Lecture "The Googlization of Everything : How Google is Disrupting Everything and Corrupting Some Things." Siva Vaidhyanathan	Library Management Series : Financial Management. Terry Weech, Professor, Graduate School of LIS			
10 13			Parkland College Library		
10 16	Consortium of Academic and Research Libraries in Illinois (CARLI). Kristine Hammerstrand, Director of User Services		Champaign Public Library		
	16th Annual Mortenson Distinguished Lecture "Can International Organizations Deliver the Information Society? : IFLA" Alex Byrne, President of IFLA				
10 17			Illinois State Library Abraham Lincoln Presidential Library & Museum		
10 18			Presentation of the topics of each countries (Illinois State Library)		
10 19			Host Visit		
10 20			Host visit		
10 23			Arthur Public Library		Illinois Amish Interpretive Center
10 24	Management of Electronic Resources. Wendy Shelburne, Electronic Resources Librarian eGranary Presentation. Cliff Missen, Director				
10 25	Building Good Digital Collections. Sarah Shreeves, Coordinator, IDEALS	Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor			
	Building a Digital Repository. Sarah Shreeves, Coordinator, IDEALS				
10 26	Overview of OCLC OhioLink. Tom Sanville, Executive Director		OCLC		
10 27			Westerville Pubic Library	Meeting with OCLC Regional Representatives	
10 30	Role of the University Librarian. Karen Schmidt, University Librarian				
	Services to the Disabled. Susan Schnuer, Associate Director, Mortenson Center. Mary Beth Allen, Applied Health Sciences Librarian. Bryan McMurray, Supervisor, Sensory Accommodations Office				
10 31	Teaching Internet Ethics. Frances Harris, University High School Librarian		University High School Library	Mortenson Center Advisory Committee Meeting	
	Copyright and Intellectual Property. Janice Pilch, Head, Slavic and East European Acquisitions				
11 1	Vendor Relations Management. Becky Smith, Head, Business & Economics Library	Web Design. Eric Sizemore, Mortenson Center Instructor			Graduation Dinner
11 2				Individual Interview.	Program Debriefing

注) 事務手続、移動などの予定は除く。

Revised 10/16/06

Schedule for Yukari Sho Visit to Loyola University Chicago

Ms. Sho is Senior Staff, Serials Collection Section, Information Preparation Division, Hiroshima University Central Library

Wednesday, October 18 - drive to Evanston with Mike Napora

- Dinner with the Seals
- Staying with the Dean and his wife

Thursday, October 19

- 8:30— 9:00 Access Services/ILL (Jen and Ursula)
- 9:00— 9:30 University Archives (Kathy)
- 9:30— 10:00 Tour of Campus (Kathy)
- 10:00— 10:30 am Meet with Dean of Libraries (Bob)
- 10:30— 10:45 Break
- 10:45— 11:30 Presentation to staff about libraries in Japan followed by Q & A in the Theater, 3rd floor Cudahy Library - (Yukari Sho)
- 11:30— 12:00 Noon (Web Team)
- 12 noon lunch with Ling-li Chang
- 1:30 — 2:00 Overview of Loyola University Libraries (Mike)
 - Cudahy Library and Library Storage Facility
 - Lewis Library
 - Rome Center Library
 - Information Commons (future site)
 - Relationship with Law Library and Health Sciences Library
- 2:00— 2:30 pm Brief Tour Library Storage Facility (Mark)
- 2:30— 3:00 Piper Hall and WLA (Beth)
- 3:00— 4:00 Break at Cudahy with Reception
- 4:00— 4:30 Serials/Electronic Resources (Martha)
- 4:30— 5:00 Monographs Acquisitions/Catalog (Ling-li)

- Dinner

Friday, October 20

- 9:00— 9:30 am Bindery and Preservation (Diane)
- 9:30— 10:00 Systems (Chulin)
- 10:00— 10:30 Gov Documents (Bill)
- 10:30— 11:00 Shuttle to Lewis Library, 25 East Pearson, WTC
- 11:00 — Yolande will meet
- 11:15 — 11:45 Tour of Lewis Library (Terry)
- 12:00 noon — 1:30 p.m. Pizza with the President and Staff Council in Lewis Towers (Terry)
- After lunch - #151 Bus to Union Station (Lewis staff person)
- 4:05 Amtrack Train #391

SHO, Yukari

Report of the Fall 2006 Associates Program, the Mortenson Center of International Library Program, University of Illinois

Abstract: The author had an opportunity to participate in the Fall 2006 Associates Program, the Mortenson Center for International Library Programs, University of Illinois, through the Overseas Training Project of the Japan Association of National University Libraries. The goal of this program is to provide professional development opportunities for librarians around the world, primarily through 1) lectures, 2) site visits to libraries and related organizations, 3) presentations of works by the librarians of the University of Illinois Libraries, and 4) short-term internships at other libraries. This paper presents a summary and the assessment of the program.

Keywords: Japan Association of National University Libraries / Overseas Training Project / University of Illinois / Mortenson Center for International Library Programs / Fall Associates Program